本文

官報 第三千四百二十九號 明治二十七年十二月一日 土曜日 内閣官報局

○勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徴兵事務條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十七年十一月二十七日

海軍大臣兼陸軍大臣 伯爵西郷從道
内務大臣 子爵野村靖

勅令第百九十六號

徴兵事務條例中左ノ通改正ス

第四條第二項中「及騎兵隊」ノ四字ヲ削ル

第二十條削除

第二十一條中「及第二十條ノ配賦」ノ八字ヲ削ル

第二十三條第一項中「毎年」ノ下ニ「戸籍簿ニ據リ徴兵適齢者ヲ取調ヘ」ノ十五字ヲ加ヘ「屆書」ノ下「ヲ戸籍簿」ノ四字ヲ削ル

第五十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

徴兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體檢査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シ又ハ寄留地ニ於テ徴集ニ應ス可キ者ニシテ同條區域外ノ本籍ニ復歸シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體檢査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第五十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但徴兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徴募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

轉籍若クハ復歸大隊區外ニ係ルトキハ舊住地大隊區司令官ヨリ新住地大隊區司令官ニ通報ス可シ

第五十五條第一項中「其往先ヲ詳ニシ」ヲ「徴集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ」ニ改メ「屆出可シ」ノ下ニ「其ノ復歸シタルトキ亦屆出可シ」ノ十四字ヲ加フ

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

通報人正當ノ事由ナクシテ徴集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五十六條第一項中「豫備徴員ヲ徴集スルニハ」ノ上ニ「戰時若クハ事變ニ際シ」ノ十字ヲ加フ

第五十七條 豫備徴員ニシテ他ノ徴募區ニ轉籍シタル者翌年一月一日以後ニ係ルトキハ新舊住地徴募區最高ノ抽籤番號ヲ準トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム但徴募年ノ十二月三十一日以前ニ轉籍（豫備徴員證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者シタル者同月日迄ニ徴集ノ命ナキトキ亦同シモ含有ス）寄留地ニ於テ徴集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル

第五十八條第一項中「豫備徴員」ノ下ニ「（豫備徴員證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者モ含有ス以下皆同シ）」ヲ加フ

第五十九條第一項中「其往先ヲ詳ニシ」ヲ「徴集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ」ニ「亦同シ」ヲ「亦屆出可シ」ニ改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

通報人正當ノ事由ナクシテ徴集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第 3429 号 本文

第六十二條第一項中「其事故」ノ下ニ「繼續シテ」ノ四字ヲ加フ

附　則

本令第四條ノ改正ハ明治二十八年一月一日ヨリ施行ス

勅令第百九十六號參照

勅令第十三號徴兵事務條例（明治二十二年二月二十七日官報）抄錄

第四條第二項

近衛師團歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徴集ス

第十九條　每年徴集スヘキ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條　師團長ハ第十九條ノ勅令及第二十條ノ配賦ニ基キ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徴募區ニ配賦ス

第二十三條第一項

町村長ハ每年徴兵令第二十五條ノ扉書ヲ具備帳ニ照鞍シ壯丁名簿ヲ作リ二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徴募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ提出ス可シ

第五十條第二項

徴兵令第二十七條ニ當リ翌年同ト爲リタル者其年ノ徴募事務終結迄ハ前項ノ限ニ在ラス

第五十二條　新兵入營前疾病ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條　新兵入營前轉籍シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第五十四條　新兵入營前轉籍シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第五十五條　新兵入營前寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其往先ヲ詳ニシ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

本條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十六條第一項

豫備徴員ヲ徴集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徴員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條　豫備徴員他ノ徴募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徴募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

寄留地ニ於テ徴集ニ應スヘキ者翌年一月一日以後本籍ニ復歸シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル但徴募年ノ十二月三十一日以前本籍ニ復歸シタル者同月同日迄ニ徴集ノ命ナキトキ亦同シ

第五十八條第一項

豫備徴員轉籍シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第五十九條第一項

豫備徴員寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其往先ヲ詳ニシ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ準背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十二條第一項

徴兵令第二十條ニ當ル者ハ同徴募區內其ノ年ノ徴集ニ應ス可キ壯丁ノ戶主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ニ願出可シ但徴兵令第二十條ニ當リ其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本條ノ保證書ヲ添ヘ屆出可シ

○省令

陸軍省令第二十三號

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則細則左ノ通定ム

明治二十七年十二月一日　陸軍大臣　伯爵西鄉從道

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則細則

第一條　本規則第二條ノ手當金ハ傷痍疾病者現時所屬ノ師團若クハ其留守師團司令部所在地ノ監督部ニ於テ每月之ヲ支給ス但師團ニ屬セサル者ハ總テ臨時陸軍中央金櫃部ニ於テ支給ス

歸鄉療養者ハ每月末日ニ於テ其月分ノ手當金請求書第一號書式ニ郡區長若クハ市町村長ノ生存證明ヲ得師團若クハ其留守師團司令部又ハ陸軍省經理局第三課ヲ經テ當該監督部又ハ臨時陸軍中央金櫃部ニ出シテ受領スヘシ

第二條　手當金ハ歸鄉療養ヲ命セラレタル翌日ヨリ退職、免官（現役免除、常備後備役免除ヲ包含ス以下同シ）免役ノ日マテ支給ス但死亡スルトキハ其當日マテ支給ス

日割計算ノ法ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メテ支給額ヲ得ルモノトス

第三條　本規則第三條ノ病衣、補缺器械又ハ副木類ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給ス

第四條　本規則第四條ノ旅費ハ行程三里以上ニアラサレハ之ヲ給セス但三里未滿ト雖モ步行シ難キモノハ車馬料ヲ給ス

旅費計算ノ法ハ陸軍給與令第六十六條及同細則第九章第一條乃至第三條ニ依ル

途中ニ於テ用留雪支船待其他避クヘカラサル事故ノ爲メ滯在シタルトキハ其滯在地ノ郡區長若クハ市町村長ノ事實ヲ證明セル書面ヲ得テ日當ヲ請求スルモノトス

第五條　歸鄉旅費ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給シ召喚旅費ハ召喚ヲ命シタル廳ニ於テ支給ス

第六條　本規則第五條ノ治療費ヲ請求セントスル者ハ地方醫師若クハ地方病院ノ證明書第二號書式ニ請求書第三號書式ヲ添ヘ歸鄉ヲ命セラレタル病院ヘ差出スヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸鄉ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ在住地所管ノ師團司令部ヲ經テ當該衛戍病院ヘ差出スヘシ

病院ニ於テハ之ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ其治療費ヲ支給スヘシ

第七條　傷痍疾病再發者ニシテ陸軍病院ニ於テ治療ヲ爲ストキハ其治療費ヲ官給トス但入院セシムルトキハ其食料ヲ自辨セシム

第八條　傷痍疾病全癒シ復職復隊ヲ命セラレタル者ハ其所屬部隊ニ於テ居住地ヨリ部隊所在地マテ第四條ノ例ニ依リ陸軍給與令第三十二表ノ旅費ヲ給ス

第九條　歸鄉療養ヲ命シタル病院ハ當該傷痍疾病者ノ所屬部隊竝居住地官氏名及歸鄉ヲ命シタル年月日ヲ現時所屬ノ師團監督部（師團ニ屬セサル者ハ陸軍省經理局第三課）竝ニ現時本人ノ俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ヘ通報スルモノトス

現時俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ニ在テハ前項ノ通報ニ依リ歸鄉ヲ命セラレタル翌日ヨリ之カ支給ヲ止ム

退職、免官、免役者クハ復職復隊ヲ命シタルトキハ其所屬部隊ヨリ直ニ之ヲ手當金支給ノ廳ニ通報スヘシ

第十條　歸鄉療養中死亡シタルトキハ其遺族若クハ親戚ヨリ郡區長若クハ市町村長ノ證明書第四號書式ヲ得テ歸鄉ヲ命セラレタル病院ヘ屆ケ出ヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸鄉ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ第六條但書ニ同シ

第十一條　甲師團ノ歸鄉療養者ノ居住地乙師團ノ所管ナルトキハ其手當金ノ支給ヲ乙師團監督部ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在テハ本人ヨリ甲師團監督部ヘ願出テ甲師團監督部ハ其名籍ヲ乙師團監督部ニ移スモノトス

臨時陸軍中央金櫃部ヨリ手當金ノ支給ヲ受クヘキ者其居住地第一師管外ナルトキハ前項ノ例ニ準ス

第一號書式　用紙半紙

手當金請求書

一金何圓也

但歸鄉療養手當金何年何月分（何年何月何日ヨリ何日迄ノ分）

右御渡相成度候也

年　月　日　　何師團監督部（臨時陸軍中央金櫃部）御中　　何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）何番地住　何師團（軍）何部（隊）附　官　氏　名　㊞

右生存者ニ相違無之證明候也

年　月　日　　何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）長　氏　名　㊞

注意

「支給額ノ所在地外ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ郵送スルモ妨ケナシ此場合ニ在テハ金額ノ送付ヲ受ケタルトキ直ニ受領證書ヲ郵送スルモノトス」

「支給額ノ所在地ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ持參シ金額引換ニ受領證書ヲ差出スモノトス」

「以下金額受領ノトキハ前二項ニ準ス」

第二號書式　用紙半紙

證明書

府（縣）郡（區）（市）町（村）番地　陸軍何兵何等卒　氏　名

右ハ何年何月何日何々ノ爲メ診ヲ請フニ依リ之ヲ診スルニ當時ノ症狀何々依テ何々ノ部ニ何々ノ手術（何々ノ療法）ヲ施シ爾後經過云々治癒（或ハ何々ニ過ギス）セシモノニシテ既往何々ノ傷痍（或ハ何々ノ疾病ニ）罹リタルモノト診斷ス而シテ右治療中ニ消費シタル入院料（診斷料、藥價）ハ別紙明細書ノ如シ（別紙ハ適宜ノ書式ヲ以テ金額ヲ明記シ醫師ノ署名捺印スヘシ）前書之通證明候也

府（縣）郡（區）（市）町（村）番地　醫師（何病院主任醫）　氏　名　㊞

年　月　日

第三號書式　用紙半紙

請求書

何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）何番地住　何師團（軍）何部（隊）附　官　氏　名

右何年何月何日歸鄉療養ヲ命セラレ候處何月何日創傷（病症）再發何月何日治療（死亡）候ニ付右加療ノ爲メ金何程ヲ費シ候間陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則第五條ニ依リ該費御下付相成度別紙醫師證明書相添及請求候也

年　月　日　　何陸軍豫備病院（何衛戍病院）御中　　右　氏　名　㊞（死亡者ニ在テハ遺族署名捺印スヘシ）

第四號書式　用紙半紙

死亡屆

何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）何番地住　何師團（軍）何部（隊）附　官　氏　名

右何年何月何日歸鄉療養命セラレ候處何々ニ依リ何月何日致死去候間此段及御屆候也

年　月　日　　何陸軍豫備病院（何衛戍病院）御中　　右遺族（親戚）　氏　名　㊞

前書之通相違無之候也

年　月　日　　何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）長　氏　名　㊞

陸軍省令第二十三號參照

明治二十七年勅令第百九十二號陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則ハ十一月二十七日ノ官報ニ載ス

○告示

大藏省告示第四十二號

明治二十八年一月一日ヨリ三月三十一日マテ輸入品元價ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣日本銀貨比較表左ノ通之ヲ定ム

但ルーピー銀貨ヲ除クノ外外國銀貨ト日本銀貨トノ比較ハ從前ノ通

明治二十七年十二月一日　大藏大臣　渡邊國武

特 3429 号 本文

外國貨幣日本銀貨比較表

	外國貨幣	日本銀貨
英吉利	一ポンド	九圓三五二
獨逸	一マーク	四五八
北米合衆國	一ドルラル	一・九三〇
佛蘭西	一フランク	三七二
瑞西	一フランク	三七二
白耳義	一フランク	三七二
伊太利	一リラ	三七二
丁抹	一クローン	五一六
瑞典	一クローン	五一六
諸威	一クローン	五一六
和蘭	一ギルドル	七七四
西班牙	一リール	〇九七
葡萄牙	一ミルリー	二・〇七八
土耳其	一ピヤストル	〇八五
澳地利匈牙利	一クローネ	三九〇
英領印度	一ルーピー	五一九

大藏省告示第四十二號參照
明治二十七年十月一日ヨリ十二月三十一日マテニ係ル外國貨幣日本銀貨比較表ハ同年一九明大藏省告示第三十五號ニ在リ

遞信省告示第二百二十八號

本月十一日ヨリ陸前國栗原郡築館郵便局ヲ三等郵便電信局トシ築館郵便電信局ト稱ス

明治二十七年十二月一日　　遞信大臣　伯爵黑田清隆

遞信省告示第二百二十九號

本月十五日限リ左ノ郵便受取所ヲ廢ス

明治二十七年十二月一日

阿波國勝浦郡	本庄村郵便受取所	阿波國那賀郡
阿波國那賀郡	豐田村郵便受取所	阿波國海部郡
阿波國板野郡	大松村郵便受取所	土佐國安藝郡
土佐國安藝郡	伊尾木郵便受取所	土佐國吾川郡

遞信大臣　伯爵黑田清隆

○警視廳公文

警視廳告示第五十七號

明治二十六年十月十一日告示第四十二號ヲ以テ告示シタル豫戒命令者今般左記ノ通轉籍及改姓セリ

明治二十七年十二月一日

警視總監　園田安賢

大分縣平民佐藤宇吉事　神奈川縣平民　山田宇吉

○敍任及辭令

○明治二十七年十一月二十六日

任第四高等學校教授

敍高等官六等

○明治二十七年十一月三十日

敍正五位

敍正五位　山根　文策

敍正五位　山根　文策

敍正五位

敍正五位

敍從五位

敍從五位

敍從五位

敍從六位

敍從六位

敍從六

○宮廷錄事

○皇后宮行啓仰出　皇后陛下ハ今一日午後二時御出門青山御所ヘ行啓ノ旨去月三十日仰出サレタリ御道筋ハ左ノ如シ

阪下門ヨリ櫻田門ヲ出テ右ヘ堀端通左ヘ參謀本部前右ヘ同部外廓ニ沿ヒ左ヘ獨逸公使館前通三部阪ヲ下リ右ヘ華族女學校前通左ヘ赤阪門ヲ出テ左ヘ右ヘ赤阪傳馬町通新道ヲ經テ青山通青山御所

○彙報

○官廳事項

○官吏發著　三滝集治監典獄菅井誠美ハ去月十二日上京同二十九日出發歸任セリ

○官吏死去　陸軍騎兵少佐正六位勳六等石原吉弘ハ去月二十六日、陸軍技師正七位久米耕造ハ同二十五日國幣中社淺間神社宮司佐々木素行ハ同二十日既モ死去セリ

判決

○船舶司檢所判定　帆船生德丸遭難ノ件ニ關シ東京船舶司檢所ニ於テ該船長審問ノ末左ノ如ク言渡セリ

判定

帆船生德丸船長愛知縣平民　川村　時吉

右ハ愛知縣尾張國知多郡生路村原田德右衛門所有登簿噸數九十七噸ノ有スル「トップスル、スターナー」形帆船生德丸ニ船長トシテ乘組執職中明治二十七年十月二十二日靜岡縣遠江國御前崎ニ於テ本船難破ノ顧末審問ヲ遂クル處

本船ハ明治二十七年十月二十二日午前一時尾張國龜崎ヲ出帆シ同四時神島ノ懸戸ヲ通航シ南ニ向ヒ二海里航行ノ後針路ヲ東ニ定メ西風ヲ船尾ニ受ケ凡ソ八海里ノ速力ニテ航走シ午後一時三十分御前崎燈臺ニ並ヒ其距離四海里ナリシ當時風位ハ依然西ナリシモ風力ハ掛縣神航通ノ際ヨリ次第ニ減少シ御前崎燈臺ヲ北々西ニ見タル所ニ到リシトキハ本船ノ速力半海里許トナリ之ニ加フルニ逆潮進航ヲ遮リ遂ニ日沒頃マテ同所ニ漂ヒタリ既ニシテ五時ヲ過クル頃ヨリ臺天南風トナリ三海里許ノ速力ヲ以テ同針路ヲ取リタルニ風位次第ニ東方ニ旋轉シ一杯開ニ爲シタルヲ以テ針路ハ風ニ從テ變換セリ六時三十分ニ至ク全ク東風トナリ夫ヨリ北々東ニ向ヒ二三海里ヲ航走シタリ當時天候ハ曇天暗黑ニシテ同七時三十分頃我然北東ノ强風トナリシニ依リ「メイン、ガーフ、トップスル」「フライントプ」及ヒ「フォールトップスル」ヲ卸シ船首ヲ北西ニ轉シ收帆中舵柄ヲ折損シタルニ依リ之ヲ修補スル爲メ「メインスル」ヲ絞リ船首ヲ風下ニ迴轉セシ際即チ後八時御前崎燈臺ヲ船首ヨリ少シク左舷ニ見トシキニ當リ御前岩ノ暗礁ニ乘揚ケタルトキ碇「トップマスト」折レ船體モ亦中央ヨリ折斷シ船首ノ一半ハ沈沒セリ依テ乘組員一同傳馬船ニ移リ本船ヲ離レタルニ暫時ニシテ船體全ク破壞シタル旨本人ヨリ陳述セリ

依テ審問書類ニ據リ判定スルコト左ノ如シ

生德丸船長川村增吉ハ本船ノ舵柄折損シ進退自由ヲ得サルヨリ之ヲ修理セン爲メ船首ヲ風下ニ向ケ遂ニ岩礁ニ乘揚ケタルモノナレトモ暗夜ニ際シ逆潮ヲ豫知セシニ拘ラス御前岩附近ヲ航走シ且ツ御前崎燈臺ノ發火ヲ認メ

○産業

○米作概況　京都府

於ケル米作ノ概況報告左ノ如シ（農商務省）

本年管下ニ於ケル米作ハ播磨地方ハ水利乏シク開花ニ際シ風水ノ害ヲ被リシ所少カラサリシヲ以テ或ハ其結果如何ナラント慮ル所アリシカ今年成熟ニ際シ意外ナル好結果ヲ得タル豐穣ヲ見ルニ至レリ而シテ之カ景況ヲ細別スルトキハ乗ヨリ多少異同アルヲ免レスト雖モ之ヲ國別トシテ其概況ヲ畧クレハ左ノ如シ

山城國　米作開花後ノ景況タル氣候適順ナリシモ降雨稀ナリシタメ高燥ノ地ニ在リテハ用水ノ缺乏ヲ告ケタメ結實不十分ナリシ所アレトモ其他ニ於テハ風水ノ害ヲ受ケサリシヲ以テ早中晩稻トモ大ニ豐熟シ之ヲ平年作ニ比スレハ最モ收穫ノ少キ愛宕郡ニ於テモ凡ソ五分、最モ多キ紀伊久世、乙訓郡ノ如キハ一割以上其他ノ郡區ニ於テモ一割乃至二割ノ増收アルヘキ見込ナリ

丹波國　開花後ハ氣候好順氣ナレトモ用水缺乏シ一時ハ成熟ヲ害セシ恐アリシモ降雨ヲ得早稻中稻ハ十分結實ヲ見ル二至リ晩稻ハ花期ニ於テ暴風雨ニ遭ヒ多少害ヲ被リシ處アレトモ是レ亦成熟ニ至リテハ差シタルコトナク概シテ豐穣ナリ之ヲ平年作ニ比シ收穫ノ少キ桑田郡ハ凡ソ五分内外、其多キ天田郡ノ如キハ二三割以上其他ノ郡區ニ於テモ一割乃至二割ノ増收アル（キ見込ナリ）

丹後國　沿海ノ加佐、與謝、竹野、熊野ノ各郡ニ於テハ開花期節ノ前後ニ於テ風水害ヲ被リシコト甚シキヲ以テ本年ハ或ハ十分ナル結果ヲ望ミ難キ有樣ナリシカ齎來好順氣ニテ豫想外ノ好結果ヲ得タル豐穣ニ際シ之ヲ見ル二至リ中晩稻ハ平年作ニ比シテ一割乃至二割餘殊ニ中郡ノ如キハ風水害ヲ被ルコト少カリシヲ以テ二割以上ノ増收アルヘキ見込ナリ（七日附京都府）

○大阪堂島米穀取引所商況

本年十月三十一日本（農商務省）

商況要領ハ左ノ如シ　大阪堂島米穀取引所ノ報告ニ係ル本年十月中ノ

欄内産業ノ部參看

十月中ノ商況ハ前月末ヨリ降雨引續キ日々霧陶シケレハ晩稻ノ實入ハ如何ヲ懸念セシカ意外ニ實入多ク新雨十二月限ハ八圓三十七錢ニ發會シ當月限ニ比シ三十三錢五厘下直ニテ十一月限ヨリ三錢ノ上直ナリ東京亦引續キ昇騰ノ模樣ナレハ當地モ其影響ヲ受ケ追々上進シテ先物十二月限八圓五十八錢人モ相當ニ現況レ爲ニ相場ハ少シク引緩ミ小高下ナリシカ本月二十七日九運減ノ捷報ニ接シ氣配一變シテ賽勝ト爲リ忽チ十二月限八圓二十四錢ノ安直ト爲リタレトモ何分現米ハ例年ニ比シ運搬自由ナラサルタメ入津少ク從テ市中在米モ減額ノ折柄ナレハ容易ニ下落セス遂次昇進ノ一方ニ傾キタリ又現米ハ追々新米入込ノ季節ニ向ヒ低落ノ商況ナレトモ在米缺乏ノタメ格別ノ下落ヲ見ス新米ハ下向ニ至リ漸ク迴米アリ多少下落シタレトモ古米ハ品拂底ノタメ依然價格ヲ保チ賣行宜シク殊ニ前月ニ引續キ運輸不便ノタメ中旬ニ至リ在米高三万石マテニ減少シ爲ニ賣方ハ眼前ノ品拂底ヲ見益々賽控ト爲リ堂島好況ヲ呈シタレトモ大口ハ新米ノ入込ヲ氣構ヒ買進マス依テ相場ハ保合ノ姿ニテ下旬ニ至リシカ運輸ノ便稍々開ケ續々入米アリタレトモ月末ノ在米高漸ク三万七千九百石餘ナレハ相場ハ別ニ變力自眼合ノ商況ナリ而シテ當市ノ現在米ハ内國米三万七千九百石餘ナレハ相場ハ百六十二石餘ナリ本月中定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	四〇、五〇〇	三五二、九〇〇	一、八二〇、九〇〇	八、九八〇	八、五〇〇	八、七五五	八、八五〇	八、七一〇	八、七五五
十一月限	一四二、七五〇	一、二〇三、四七四、〇〇〇	四、一八四、五八六、〇〇〇	八、七二〇	八、二二〇	八、四〇五			
十二月限	三二〇、六〇〇	二七〇四、〇〇二、〇〇〇	二、六六二、五〇〇						
合計	五〇三、八五〇	四、二六〇、三八一、五〇〇							

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	六六、八	一四、七〇二、六〇〇	二二、六〇〇～〇、九五〇	二、一八六					
十一月限	六四四	一四四、六六七、八〇〇	二三、七五〇	二、一五五〇	二、二五六五				
十二月限	一、四二〇	三三、三二一、八〇〇	二四、三二五	二、〇〇〇	二三、〇四四				
合計	二、七三二	六二、六九二、二〇〇							

○近江油取引所商況　近江油取引所ノ報告ニ係ル本年十月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

去月一日本欄内（農商務省）參看

十月中ノ商況ハ種油ノ輸入多ク爲ニ上旬ハ相場下落ニ傾キシモ中旬ヨリ意外ニ輸出アリ且ツ各地方ノ商況モ亦上景氣ニシテ下旬ニ至リ日ヲ追ヒ昇騰ニ赴キタリ其最高十二月限（上物油一石代價）二十四圓三十二錢五厘、最低二十二圓ヲ下回ニ集散セリ種油ノ調査ハ九月ヨリ持越高五千四百八十樽當地製造高八百九十樽、輸入七千十樽、輸出七千二百二十樽、消費三百七十樽ニシテ末日ノ現在高ハ五千七百九十樽（一樽四斗詰）ナリ又本月中上物種油ノ定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	七、九八〇	七、一一〇	九、六〇〇	九、二九〇	八、九〇〇	九、一八〇			
十一月限	一〇、八九〇	九〇、三五五、七〇〇	八、三九五	八、二三〇	八、一一〇				
十二月限	三五、二〇〇	二九、一五九、〇〇〇	八、四一五	八、一一〇	八、二八〇				
合計	五四、〇七〇	四五三、〇五五、三〇〇							

○岡山米穀取引所商況　岡山米穀取引所ノ報告ニ係ル本年十月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

本年十月二十九日本（農商務省）

十月中ノ商況ハ沈靜ニシテ相場ノ高低甚タ少ク一日十二月限八圓十一錢ニ寄附キ以後八圓四十一錢五厘ヲ最高トシ其範圍内ヲ往來セリ而シテ現米ノ輸入ハ兩備作州地方ヨリ六千三百九十石、輸出ハ兵阪及紀州地方ヘ四千八百五十石餘ナリ又本月中定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	二、〇九〇	二、〇三九、九〇〇	一八二〇	八、九八〇	八、五〇〇	八、七五五			
十一月限	四九、五三〇	四一八、四五八、六〇〇	八、七二〇	八、二二〇	八、四〇五				
合計	四一、六二〇	四一八、六六二、五〇〇							

○近江油取引所商況　近江油取引所ノ報告ニ係ル本年十月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

去月一日本欄内（農商務省）參看

十月中ノ商況ハ種油ノ輸入多ク爲ニ上旬ハ相場下落ニ傾キシモ中旬ヨリ意外ニ輸出アリ且ツ各地方ノ商況モ亦上景氣ニシテ下旬ニ至リ日ヲ追ヒ昇騰ニ赴キタリ其最高十二月限（上物油一石代價）二十四圓三十二錢五厘、最低二十二圓ヲ下回ニ集散セリ種油ノ調査ハ九月ヨリ持越高五千四百八十樽當地製造高八百九十樽、輸入七千十樽、輸出七千二百二十樽、消費三百七十樽ニシテ末日ノ現在高ハ五千七百九十樽（一樽四斗詰）ナリ又本月中上物種油ノ定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	四〇、五〇〇	三五二、九〇五、五〇〇	八、九八〇	八、五〇〇	八、七五五				
十一月限	一四二、七五〇	一、二〇三、四七四、〇〇〇	四、一八四、五八六、〇〇〇	八、七二〇	八、二二〇	八、四〇五			
十二月限	三二〇、六〇〇	二七〇四、〇〇二、〇〇〇	二、六六二、五〇〇						
合計	五〇三、八五〇	四、二六〇、三八一、五〇〇							

○八王子米穀取引所商況　八王子米穀取引所ノ報告ニ係ル本年十月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

去月七日本欄内（農商務省）參看

十月中ノ商況ハ各地方ノ高氣配ト正米上旬ト二連ト十二月期米開市ノ當日ヨリ迄ミ昇騰スルノ狀勢ナリシカ上旬ニ至リ相場少シク保合ヒ旁ヽ幾分カ低落ノ景況ト爲リ中旬ハ商品ノ減少及輸入ノ絶塞ヲ氣構ヘ相場再ヒ上昇シ下旬ニ至リテハ益ヽ昇騰ノ狀況ヲ呈シ相場高位ニ保合ノ儘終レリ該

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	六六、八	一四、七〇二、六〇〇	二二、六〇〇～〇、九五〇	二、一八六					
十一月限	六四四	一四四、六六七、八〇〇	二三、七五〇	二、一五五〇	二、二五六五				
十二月限	一、四二〇	三三、三二一、八〇〇	二四、三二五	二、〇〇〇	二三、〇四四				
合計	二、七三二	六二、六九二、二〇〇							

○熊谷米穀取引所商況　熊谷米穀取引所ノ報告ニ係ル本年九月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

去月二十八日本欄内（農商務省）參看

九月中ノ商況ハ正米缺乏ノタメ九月十月ノ兩期ハ價格騰ヲサルモ十一月期ノ如キハ新雨發會當日卽チ二百十日ノ大厄日モ無事ニ經過シ以來天氣本順ニシテ稻作豐穣ノ唱ヘ高ク益々安直ト爲リ七圓臺ニ下落セントスルノ望モアリシカ二百二十日頃ニ至リ關西暴風雨ニシテ阪地高直ノタメ價格ヲ挽回シテ中旬以後ハ再ヒ低落ニ向ヒ爾後高低常ナク變動ノ直中甚タ狹隘ノ間ニ往來シタリ又集散ノ模況ハ當地方ハ米穀ノ供給地ニシテ生産高少カラサル本年ニ於テ近來缺乏ヲ告ケシカ日一日ヨリ甚シク僅ニ地方内ノ需要ヲ充スニ過キス故ニ本月中ニ於ケル九月期ノ賣買ハ皆無ニシテ受渡米ナキニ至レリ靈シ各米商ハ新米出廻リノ一日モ早カランコトヲ切望セリ而シテ本月中定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

九月限	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円

相場ノ昇騰ハ前記氣構ノ如ク正米ノ追日減少セルト輸入ノ不便ニ影響セルト二外ナラサルモノヽ如シ而シテ賣買ノ狀況ヲ前日ニ比較セハ一層好景況ニシテ取引石高益々増加シ商勢活潑ナリ當地正米ノ輸出入ハ輸入五千六百餘輸出九千百餘ナリ正米入期米入期米ニ先チ相場愈々騰貴シ取引ノ高氣配去月ニ異ナラス輸入追々減少シ荷主ハ自然價位ヲ引絞リ賣惜ミノ狀況ニシテ當用必需ノ外差シタル取引ナシ又本月中定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均	最高	最低	平均
	石		円	円	円	円	円	円	円
十月限	八六〇	七、九五一、〇〇〇	九、〇二五	九、一五〇					
十一月限	五、八一〇	五〇、九七〇、〇〇〇	九、二〇〇	八、六三〇	八、九二〇				
十二月限	八二、五九〇	七三一、一三三、七〇〇	九、〇二〇	八、四九〇	八、八五〇				
合計	八九、二六〇	八九〇、五四八、〇〇〇							

○前橋米穀繭絲取引所商況　前橋米穀繭絲取引所ノ報告ニ係ル本年十月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ

去月二十六日本欄（農商務省）參看

米　十月中ノ商況ハ十二月期八圓五十五錢ニ發會シ爾來高價八圓九十六錢ニ取組ミ一時九圓以上ノ高價ヲ現出スヘシト豫想シタリ蓋シ高價ヲ生シタルハ運輸ノ便閉塞シタルタメト市内正米ノ缺乏シタルトニ原因シタルモノナルヘシ而シテ市内ノ集散米ヲ調査スレハ奥州、野州、常州ヨリ輸入シタル米ハ五千俵ニシテ輸出米ハ一万二千俵ニ過キス又市内ニ於テ需要シタルハ二万四千五百俵ニシテ地米ヲ以テ供給シタリ是ノ如ク正米ニ不足ヲ生セントシタルタメ從テ高價ヲ表シタリ爾來著シキ高低ナク全月ヲ終レリ

絲　十月中ノ商況ハ屑物品物缺乏ノタメ一時高價ヲ呈シ從テ買注文ヲ爲スモノアルモ品物缺乏ノタメ賣物ヲ爲ス者ナク至テ沈靜ニ同月ヲ了セリ

本月中米穀繭絲定期賣買高及一箇月平均公定相場ハ左ノ如シ

賣買高

種目	限月	數量	賣買高	價額	最高	最低	平均
米	十月限	石		円	円	円	円
	十一月限	八六〇	七、九五一、〇〇〇	九、〇二五	九、一五〇		
	十二月限	五、八一〇	五〇、九七〇、〇〇〇	九、二〇〇	八、六三〇		
	合計	八二、五九〇	七三一、一三三、七〇〇	九、〇二〇	八、四九〇		
屑物	十月限	七、四〇〇	二、九五二、一〇〇	五〇〇	三〇〇	四〇〇	
	十一月限	一、二〇〇	四、二〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
	十二月限	一、六〇〇	五、六〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
	合計	一〇、二〇〇	三、四〇〇、〇〇〇				

平均價

	月	最高	最低	平均
米	十月	円	円	円
	十一月	九、三〇〇	九、〇〇〇	九、一五〇
	十二月	九、三〇〇	九、〇〇〇	九、一五〇
屑物	十月	六、六三〇	六、三三五	六、四八〇
	十一月	九、三〇〇	九、〇〇〇	九、一五〇
	十二月	九、三〇〇	九、〇〇〇	九、一五〇

○傳染病患者

東京、大阪ノ二府及兵庫、群馬、茨城、三重、青森、大分ノ六縣ニ於ケル傳染病患者左ノ如シ

東京府　去月二十七、二十八ノ兩日ニ屆出ノ腸窒扶私患者日本橋區男一人、赤阪區男一人、芝區女一人、花原郡女一人、南多摩郡男二人、北多摩郡男一人、計七人（實布的里亞患者日本橋區男一人、下谷區男一人、本郷區男一人、淺草區女一人、北多摩郡男一人、東多摩郡女一人、計六人）合計十三人（暫報總）

大阪府　去月十九日ヨリ同二十五日ニ至ル一週間ニ屆出ノ赤痢患者三十二人死亡十七人）腸窒扶私患者二十九人死亡（大阪府）

兵庫縣　去月十九日ヨリ同二十五日ニ至ル一週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者二十六人死亡（兵庫縣）

群馬縣　去月十九日ヨリ同二十五日ニ至ル一週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者二十一人死亡三人）實布的里亞患者百五十三人死亡五十三人）同二十六、六、二五）

茨城縣　去月六日ヨリ同十九日ニ至ル二週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者十五人死亡五人）實布的里亞患者一人）發疹窒扶私患者一人（茨城縣）

三重縣　去月十二日ヨリ同十八日ニ至ル一週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者七人死亡六人）赤痢患者二十人死亡十五人）實布的里亞患者十人死亡五人（三重縣）

青森縣　去月十九日ヨリ同二十六日ニ至ル一週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者十八人死亡二人）實布的里亞患者一人死亡二人（青森縣）

大分縣　去月十八日ヨリ同二十四日ニ至ル一週間ニ屆出ノ赤痢患者五十人死亡二十人）腸窒扶私患者二十九人死亡（大分縣）

○「ペスト」病調査復命書（去月三十日ノ續）

香港ニ於ケル「ペスト」流行ノ概況及其起原

香港ニ於テ「ペスト」ノ初チ萌芽ヲ發セシ時日ニ至リテハ諸説區々トシテ明ナラスト雖モラウソンカ五月十日同地ニ開キタル衛生會議ニ呈出セル當見書ヲ讀ムニ書中我等ハ東華病院ヲ巡視シテ其一室ニ目下廣東ニ流行セル者ト同症ノ患者凡ソ二十人ヲ見タリ云々ノ一節アルヲ以テ見レハ恐ラクハ其初チ起リシハ四月下旬頃ナルヘシ而シテ六月初旬ヨリ中旬ニ至リテ最モ猖獗ヲ極メ一日六七十人ノ新患者ヲ出スニ至リシモ同月下旬ヨリ漸々減少シテ九月上旬ニハ殆ト全ク其跡ヲ絶ツニ至レリ

本症ノ同地ニ起リシ原因ヲ尋ネント欲セハ先ツ同地ニ特別ノ事情アリシヤ否ヤ考ヘ又自ラ其近隣地ニ往キテ之ヲ探究セサルヘカラス小官カ探究シテ得タルモノハ旱天ト近隣諸地ニ於ケル本症ノ流行甚ナリ乞フ左ニ此二者ノ概況ヲ述ヘテ其由來スル所ヲ見ン

小官ハ最ニ香港ニ於テハ毎年十月以降翌年三四月頃マテハ降雨少キコトヲ述ヘタリシカ本年ハ旱旬ニハ給水ノ時ヲ限リテ一日七時間トシ次ハ四時間トシ四月下旬ニ至リテハ遂ニ二時間ノ他全ク水ヲ得ル能ハサルニ至レリ殊ニ支那人住居ノ邊ハ此困難殊モ甚シク遠ク山上ノ谿谷ヲ探リ僅少ノ水ヲ掬ロ來リテ用ニ供セシト云フ此旱魃カ本症ノ誘因ヲ爲セシヤ否ニ至リテハ小官ノ明言シ能ハサル所ナリト雖モ北海、廣東、海口ノ諸地ニテ既往ニ今年ニ流行セル「ペスト」ハ概ネ旱天ノ後ニ起リシ事ヲ明言セラレタリ

小官ハ之ヨリ進テ近隣本症流行地ノ狀況ヲ略敍シ今回香港ニ流行セル「ペスト」ノ何處ヨリ輸來セラレタルカヲ講究セント欲ス

雲南省ニ於テハ本症ハ殆ト流行シタリト云フ同省醫員ニハ歐人ノ傳道師ニシテ醫ヲ兼ネタル者アリ彼等ノ言フ所ニ據レハ本年モ亦流行シツヽアリト云ヘリ

北海ニ於テハ千八百五十年、千八百七十七年、千八百八十二年、千八百九十四年ノ數回本症ノ流行アリシカ爾來久シク全ク其跡ヲ絶チリ然ルニ今年三月中旬ニ至リテ再ヒ其流行ヲ來セリ

廣東ニ於テハ是マテ本症ノ流行セシコトアリヤ否判然タラス恐ラクハ本年ヲ以テ始トスルカ少クトモ近年ニ於テ其流行ヲ見サリシ事ハ確ナルモノヽ如シ然ルニ本年三月下旬ヨリ本症流行シ甚シキ慘劇ヲ演セリ同地ニ於ケル本症流行ノ狀況、罹病者及死亡數等ハ素ヨリ判然セス雖モ香港日本領事館書記生白須氏カ同地ニ赴キテ親シク聞キ得タル所ヲ傳聞スルニ同地ノ支那人ハ唯死者幾十万ナルカ知ラスト云ヒ西洋人ハ一般ニ十四万人餘ナルヘシト語レリト云フニ者共ニ眞ヲ措ク能ハスト雖モ其影ハ映スル所此ノ如ク大ナリ其事實モ亦必スヤ大ナラサルヘカラス

厦門ニ本症ノ流行セシハ疑ナキモ詳細ヲ知ルニ由ナシ然レトモ其香港ヨリ後ナルコトハ確ナルモノヽ如シ

廣西省高州ニハ四年前本症ノ流行セシコトアリシモ本年ノ如何ニ至リテハ詳ナラス然レトモ佛國支那、印度知事ノ說ニ據レハ本症ノ廣東ニ於テ最モ猖獗ヲ極メシ頃支那南部ニ於テモ亦一般ニ流行セリト云ヘリ

官報 第三四二九號 明治二十七年十二月一日

以上逃ヘ來リシ譜地中本年「ペスト」ノ流行セシ事確實ナルハ廣東、北海寮自厦門ノ四地ナリトス而シテ厦門ハ香港ヨリ後ナルヲ以テ官フヲ要セス又寮自ニ至リテハ稅關アリテ東京ヲ經テ香港ト貨物ノ往來アレトモ決シテ頻繁ナラス然ルニ廣東北海ノ二地ハ其流行香港ニ先チ而モ其交通極テ頻繁ナリ廣東ト香港トハ其距離海上九十哩ニシテ汽船ヲ以テ又僅ニ六時間ヲ以テ邊ヘシ又香港ニ於テハ自家ノ生產物ト稱スル者殆ト之ナキヲ以テ日常ノ用具ヨリ蔬菜ニ至ルマテ盡ク之ヲ廣東ニ仰カサルヘカラス加フルニ廣東ニハ稅關アレトモ香港ニハ之ナキヲ以テ洋商ノ貨物ヲ支那內地ニ輸入セントスル者ハ商略上間接ニ香港ヲ以テ之ヲ輸スヘシト雖モ香港在住支那人食用ノ豚ハ當北海ヨリ來ルモノナレハ此間ノ往來モ亦頻繁ナリ此ノ如クナルヲ以テ香港ノ「ペスト」ハ此二地ヨリ輸來セシコト最モ信ナルニ近シ而シテ同地ノ衆醫ハ廣東ヨリ來レルコトヲ信然レトモ又北海ノ流行モ亦ハ之ニ疑ヲ存ス而シテ此二地ハ又明ナラス

此ノ如ク本症傳播ノ有樣等ヲ考究スルニ當リテ最モ小官等カ注意ヲ喚起シタル者ハ墺門カ本症ノ災害ヲ免レシコト是ナリ實ニ墺門ハ香港ヲ去ルコト海上四十五哩、廣東ヲ去ルコト又甚タ遠カラス而シテ其間交通ノ盛ナル二地ト北海間トハ超エタリ即チ香港ヨリハ朝夕二回汽船ノ往來アリテ僅ニ一時間廣東ヨリハ河汽船ヲ以テ四時間ニシテ邊スルヲ得ル而シテ同港ハ平坦ノ地多ク地勢南ニ面シ夏日ノ如キモ南風絕エスシテ空氣香港ノ如ク酷烈ナラス故ニ夏日ハ此處ニ暑ヲ避クル者多シ其兩地トノ交通此ノ如クナルニ關セス毫モ本症ノ侵入所ト爲ラサリシハ必ヤ因ル所ナクンハアラス小官ハ其原因ヲ左ノ數項ニ案ム

（第一）澳門ハ近來貿易衰退シ從テ支那勞働者ノ移住多カラサル事

（第二）同地ニ於テハ本症ノ香港ニ流行スルヲ聞クヤ澤瀉ヲ疏通シ、檢疫法ヲ行フ等豫防法ヲ嚴ニセシ事

（第三）警察行政香港ニ比シテ行屆キ居レリトノ事

（第四）南風常ニ動キ市街空氣ノ流通香港ニ比シテ良キ事

小官ハ同地ニ遊ヒテ親シク觀察ヲ遂ケント欲シテ病ノタメニ其意ヲ果サヽリシハ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

小官ハ之ヨリ尙ホ一歩ヲ進メテ本症ノ原因、症候、病理解剖的變化及治療法ニ論及セント欲ス

「ペスト」ノ原因

「ペスト」ノ原因ハ一種ノ公微有機體ナラントハ曾テイルヒヨオカ孃言セシ所ニシテ千八百七十八年アストラハンニ本症ノ流行セシ時ゾンメルブロオトハ顯微鏡下ニ血中一種ノ光輝アル微小體ヲ見タリトス云ヘリ然レトモ當時黴菌學尚ホ幼稚ニシテ現今ノ如ク發達セサリシヲ以テ其微小體ノ果シテ何物ナルカヲ斷言スルコト能ハサリキ然ルニ今回我同行ノ北里技師ハ腦膜セル腺及血液中ニ一種ノ黴菌ヲ發見之ヲ種々ノ動物ニ試ミテ眞ニ其本症ノ原因タルヲ明ニセリ君ノ功績ハ實ニ偉大ナリト云フヘシ而シテ此黴菌カ如何ニシテ人ノ體中ニ侵入スルカノ問題ニ至リテハ黴菌學ノ範圍ニ屬スレトモ強テ之ヲ其檢索ニノミ委スヘキニアラス之ヲ決スル又臨床的ノ觀察ヲ要スルコト大ナリ

抑〻本症ノ接觸性傳染病ナルヤ否ノ問題ハ學者ノ一爭點ナリキ而シテ小官ノ考フル所ニ據レハ本症ハ彼ノ天然痘等ノ如ク少シク患者ニ接スル醫師、看護人等ノ本症ニ罹レシ事ハ古來事實ノ證行哲ニ當リテ常ニ患者ニ接スル醫師、看護人等ノ本症ニ罹レシ事ハ古來事實ノ證明スル所ニシテ今回ノ流行ニモ小官ハ石神其他一人ノ日本醫師及一名ノ支那醫ヲ除キテハ醫師看護人中傳染セシ者ヲ見スト雖モ小官等三人ハ特別ノ事情アリテ存シタルナリ而シテ多數ノ本症患者ヲ容レ爾モ空氣ノ流通極テ惡シキ一室ニ入リテ長ク此處ニ止ル時ハ或ハ黴菌ノ空氣ヲ介シテ體中ニ入ルコトナシトス云ヘ難カラン然レトモ今回ノ流行ニ於テ英國兵士ノ患家掃除ニ任セシ者三百人餘ナリシカ其中本症ニ感染セシ者僅ニ十人ノミナリキ是レ空氣ヨリスルコト少キノ一證ナリ若シ又空氣ヨリスルモノナリトセハ窒扶私黴菌ノ飲料水ニ由リテ體中ニ入リ腸ノ聚腺及孤腺ヲ犯シ續キテ腦膜腺ヲ侵スカ如ク先ツ氣管枝腺カ最モ強ク腫脹スヘキ筈ナルニ小官ハ剖見上一回モ其劇シキ然剩ナリ然レトモ病ニ所謂好發地（Praedilektionsstelle）アルカ故ニ氣管枝腺ハ本症ニ取リテ好發地ニアラサルヤモ知ルヘカラス

「ペスト」黴菌ノ飲食物ニ由リテ體內ニ輸ラルヽヤ否ハ又確答ヲ與ヘ難シ北里技師ハ「ペスト」黴菌ヲ鼠ニ飼食セシニ此鼠ハ遂ニ蹠レ其血中ニ「ペスト」黴菌ヲ發見セリト云ヘリ然レトモ此動物試驗ヲ以テ直ニ人間ニ應用スヘカラス如何トナレハ鼠ニ遂ヘシカ如ク支那人ハ一度焼炙シタルモノニアラサレハ食ハサルノ習慣アレハナリ然ルニ小官ハ一回モ此諸腺ニ劇甚ナル炎衝ト强キ腫脹トヲ見サリキ然レトモ該諸腺モ亦好發地ニアラサルヤモ知ルヘカラス

グリージンゲル曰ク本症ニ於テ腺ノ先ツ腫脹スルモノハ其表在スルモノナリ故ニ鼠蹊腺若クハ腋窩腺ハ最モ初ニ最モ强ク腫脹ス又赤タ歩行シ得サル小兒ニ在リテハ頸下腺ノ腫脹ス是レ幼兒ハ物ヲ舐ルコト多キカ故ナラント又翼スルニ氏ハ本症發祭ノ體中ニ入ルハ主トシテ皮膚ヨリスルコトヲ認メタルナリ實ニ小官カ今回調査セル所ニテモ鼠蹊腺ノ腫脹シタルモノ最モ多ク腋窩腺之ニ亞キ他ノ頸腺、頸下腺、肘腺等ノ劇シク侵サレタルハ甚タ少シ是レ小官カ蹊ニ過ヘシカ如ク支那下等人民ハ跣足ニシテ常ニ勞働ニ從事スルコト多キヲ以テ手足ニ創傷ヲ蒙リ易ク黴菌之ヨリ侵入スルコト多キニ由ルモノナランカ而シテ小官ハ患者ノ手足ヲ檢シテ僅微ナル皮膚ノ剝離ヲ有スルモノ多キヲ見シカ肉眼的ニ創傷ノ存在ヲ證シ得シモノハ少カリキ然レトモ么微有機體ハ如何ナル小隙ヨリモ侵入シ得ヘキヲ而シテ又小官ハ淋巴管炎ヲ生シタル見タルコト甚タ少シ以上論シ來リシ如クナルヲ以テ小官ハ「ペスト」黴菌ハ多ク皮膚ニ取ルコト恰モ丹毒ノ創傷ヨリ侵入スル如クナラント考フルナリ小官カ此考ヲ確メンニハ小官等ノ病歷ヲ引證スルコトノ最モ適當ナルヲ信ス小官ハ二十六日午後一時ヲ解キシ時恰モ我助手ハ尿其他檢セシタメニ來リテ解屍シテ得タル臟器ヲ他ノ器中ニ移スノ勞ヲ取レリ而シテ此三人ハ一日若クハ二日ノ後腋窩腺ニ腫脹ヲ發シタリ是レ解屍及臟器ヲ取扱ヘル際手ニ吾人自己ノ知ラサリシ微傷或ハ皮膚ノ剝離アリテ黴菌此處ヨリ侵入セシモノナルヘシ然ルニ彼ノ患家掃除ニ從事セシ英國ノ兵士ハ普靴ヲ穿チ居リシモ其本症ニ感染セシ者ハ概ネ鼠蹊腺ニ腫脹ヲ來シタリ是レ甚タ黴菌ノ皮膚ヨリ侵入スルト云フ考ニ反スルカ如クナレトモ此ノ如キ劇シキ勞働ノ際ニハ器物等ノタメニ其足脚ニ皮膚ノ小剝離ヲ生スルコト容易ナルカ故ニ絕對的ニ小官等カ說ヲ反證スルモノニアラス今回本症ニ罹レシハ男子ノ多クシテ女子少シ是レ遂ニ逃ヘシカ如ク香港ノ支那人ハ男子ノ數女子ヨリ遙ニ多キカ故ニシテ本症カ男女ノ擇ヒテ侵スカ故ニアラサルヘシ

年齡ニ附キテ云ヘハ中年ノ者ニ多クシテ老者及幼者ニ少シ又乳兒ノ病ニ罹レル者ハ一回モ見タルコトナシ是レ香港支那人ニハ中年ノ勞働者多ク幼老者ノ證キニ由ルナランカラウソンハ小官等カ著港前乳兒ノ患者五六人ヲ見タリト云ヘリ

患者ヲ人種ヲ以テ別チタルモノニハラウソンノ統計アリ左ニ揭ク

人種	罹病數	死亡數
英國人	二	二
歐亞雜種人	二	二
日本人	大	大

人種	罹病數	死亡數
印度人	五	一〇
葡萄牙及マニラ人	一〇	二
支那人	未詳	未詳

（未完）

○二十六年中死亡數　兵庫縣下ニ於ケル昨二十六年中死亡者ノ數ハ總計四万四百七十八ニシテ之ヲ年齡及病症等ニ區別スレハ左ノ如シ（兵庫縣）

年齡	病症	傳染性病	皮膚及筋骨及關節病	血行器病	呼吸器病	消化器病	外傷及毒性變病	原因不詳	計
五歲以下	未滿	一、六四〇	二、二二〇	四〇一	七七	三、八六	一、六六〇	一四〇	一、二二一
十五歲以上		六六五	二一〇	四八	八一	二、八一	四、五五	五八	七、一九〇
十歲以下		三九六	一七	二一	五五	一、九六	二、二七	一七	三、三二一
十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	二、二七	二、一七	一四	四、七六一
二十歲以下		三六二	三五	二六	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
二十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
三十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
三十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
四十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
四十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
五十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
五十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
六十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
六十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
七十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
七十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
八十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
八十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
九十歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
九十五歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
百歲以下		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
百歲以上		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
生年不詳		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一
計		三五二	三三	二五	一、三六	一、九六	一、三五	一四	三、三二一

○外報

支那

○軍機大臣ノ解任　十一月十六日ノ上諭ヲ以テ額勒和布ハ開展ノ才ヲ缺クヲ以テ又張之萬ハ年老ヲ以テ均シク軍機大臣ノ職ヲ解カレタリ（去月十九日上海申報）

○滿洲高等武官ノ革職竝後任　十一月十日ノ上諭ヲ以テ正白旗漢軍都統辦理東三省練兵事務大臣定安ハ東三省ノ練兵ニ從事スル年アリ而シテ平日訓練精ラス調遣スル所ノ營勇陳ニ臨ミテ力ヲ得サルヲ致ス實ニ大ニ委任ニ負クモノナリ黑龍江將軍依克唐阿ハ兵ヲ督シテ進剿シ節々覬望遷延シ敵潘石河等ノ處ヲ渡ルモ未タ救援スル能ハス又畏惡無能ニ屬シ因テ均シク部ニ交付シ處分ヲ議セシメタリ同十六日部ノ議奏ニ照シ定安依克唐阿倶ニ其本官ヲ革免シ定安ハ暫ク奉天ニ留リ東三省ノ練兵事宜ヲ辦理セシメ依克唐阿ハ仍ホ所部ヲ率ヒ罪官ノ儘功ヲ立テ以テ後效ヲ觀ルヘシトノ諭旨アリタリ而シテ更ニ同十八日ノ上諭ヲ以テ琿春副都統恩澤ヲ黑龍江將軍ニ鐵麟旗蒙古都統榮祿ヲ正白旗漢軍都統ニ任シタリ（去月十二日、十八日及二十一日上海申報）

印度

○石炭業ノ景況　本年七月刊行ノカルカツタ「カピタル」ハ印度鐵道管理部ヨリ發シタル千八百九十三年ノ鐵道報告ニ基キ印度石炭採掘業ノ漸次ニ發達スル狀況ヲ述ヘテ頗ル詳ナリ今之ヲ閱スルニ印度ノ石炭採掘業ハ未タ幼稚タルコトヲ免レス且ツ其發達ハ遲緩ナリト雖モ逐次ニ好況ヲ呈シ漸ク東方市場ヨリ英吉利石炭ヲ驅逐セントスル傾向アルカ故ニ英吉利石炭ノ持主ハ大ニ恐ヲ後來ニ抱ケルカ如シ今茲ニ其一例ヲ示サンニ千八百八十四年間ニ採掘シタル印度石炭ノ數量ハ百三十九万八千噸、英吉利ヨリ輸入シタル同品ノ數量ハ六十八万千噸ナリシカ千八百九十三年ニ至リテハ印度ニ於テ採掘シタル石炭ノ數量增加シテ二百五十三万噸ニ達シ同年內ニ英吉利ヨリ輸入シタル同品ノ數量ハ減シテ五十四万噸ト爲レリ

印度石炭ノ採掘高ヲ增加シタルコトニ關シ頗ル重要ナル他ノ一現象ハ印度產炭地ノ配置ニ於テ以前ヨリモ一層ノ平均ヲ見ルニ至リタルコト是ナリ回顧スレハ今ヨリ十年前ニ當リベンゴール以外ノ土地ニ於テ石炭ヲ出シタルハ甚タ稀ナリシモ現今印度ノ各地ヨリ採掘セラルヽ同品ノ數量ハ殆ト信スヘカラサルノ多キニ達シタリ今ヨリ十年前ニ採掘シタル石炭ノ數量ト現時ノ同數量トヲ比較シタル一表ニ據リテ之ヲ調査スレハ其增加總數量ハ殆ト百二十五万噸ニシテ此增加總數量ノ內五十万噸以上ハ全クベンゴール以外ノ土地ヨリ採掘シタルモノナリベンゴール以外ノ土地ニシテ前記ノ如キ石炭ノ多量ヲ出シタルモノハアッサムノマカム坑及ハイデラバッドノシンガレニー坑ナルカ右等ノ二坑ヨリ採掘シタル石炭ノ性質ハ最モ佳良ナリ今往時ノ統計ニ據リテアッサム坑及シンガレニー坑ノ採炭量ヲ調査スルニ既往十年間ニ於テアッサム坑ヨリ採收シタル數量ハ一万六千噸ヨリ增加シテ十六万四千噸ニ達シシンガレニー坑ノ如キハ其採炭ヲ開始シタルコト僅ニ七年前ニ在リシモ昨年中ニ同坑ヨリ採收シタル數量ハ十五万七千噸ナリ其他バンジャップ、中央諸州、バルチスタン及緬甸ニ於テモ亦新炭坑ノ開始セラレタルモノアリ現今此等ノ諸坑ヨリ產出スル一箇年間ノ總數量ハ二十万噸ニ過キスト雖モ將來ニ於テ其發達ヲ見ルヘキ望アルコトハ右等諸坑ノ報告ニ照シテ明ナリ印度各部ノ炭坑ニ於テフルモノト謂ハサルヘカラス現時ノ狀況ニ據レハ北西鐵道、孟買及パロダ鐵道、其他マドラス鐵道ニ於テハ其費用一哩ニ附キ四「アンナ」ハ三錢、一「アンナ」以上ニアラサレハ到底其業ヲ營ムコト能ハサルニモ拘ラス最低ノ代價ヲ以テ石炭ヲ購買スルコトヲ得ヘキ東部印度鐵道ニ於テハ一哩ニ附キ僅ニ〇七一「アンナ」ノ

官報 第三四二九號 明治二十七年十二月一日

平均費用ニ依リテ其業ヲ營ムヲ得ルノ一事ニ徴スルモ石炭ノ低價ト鐵道ノ發達上ニ重要ノ關係アルコト又疑ナシ

印度鐵道ハ印度石炭ヲ消費スルコト最モ多キモノナルカ既往十箇年間ニ於テ鐵道ノタメニ消費シタル石炭ノ數量ハ九十二万噸ニ達シ產出ノ總額ニ配當スレハ殆ト三分ノ一以上ニ相當セリ又印度鐵道ニ於テ消費セラレタル印度石炭ト英吉利石炭トノ對照表ヲ閲スルニ既來十箇年間ニ消費セル印度石炭ノ數量ニ比シ二倍以上ナリ而シテ英吉利石炭ノ消費額ハ千八百八十六年ニ於テ其最高數量ニ達シタリシ以來漸次ニ其減縮ヲ示シタリ又英吉利石炭ヲ消費シタルコトノ最モ多キモノハ大印度半島會社ニシテ此會社ノタメ昨年中ニ消費セル英吉利石炭ノ數量ハ六万七千八百噸ナリ其他ノ會社ニ在リテ多少英吉利石炭ヲ購買シタルモノハ孟買「パロダ」會社「ラジプタナ」「マルワ」會社及北西會社是ナリ孟買「パロダ」會社ニ於テハ從來英吉利產ノ石炭ニアラサレハ使用シタルコトナク且ツ此會社ノミハ印度石炭ヲ使用スヘキ設計ヲ爲シタルコトアラサリシカ千八百九十三年ニ及ヒテハ始テ海路ヨリペンゴール石炭ノ孟買ニ陸揚セラレタルモノアリ此石炭ノ代價ハ頗ル低廉ニシテ十分ニ英吉利石炭ト競爭スル得タリト言フ

印度石炭ト英吉利石炭トハ啻ニ其代價ニ於テノミナラス其炭質ニ於テモ亦競爭アルコトヲ記臆セサルヘカラス而シテ蒸氣用ノ目的ヨリ言ヘハ英吉利石炭ハ印度石炭ヨリモ稍〻勝レル所アリ通常石炭ニ比スレハ遙ニ良好ナルカ故ニ之カ消費者ハ英吉利石炭ニ對シテ比較上高價ヲ拂フコト通常ナリ政府ノ第一回年報中ニハ鐵道ニ使用シタル各石炭ノ性質比較表ヲ掲ケ且ツクルハルパルレー石炭ノ一噸ヲ標準トシテ其他ノ石炭ヲ比較シタリシカ此調査ニ據レハ同一種類ノ石炭ニアリテモ之ヲ使用シタル各線路ニ依リテ其結果同一ナラス隨テ廣ク其調査ノ結果ヲ究ムルニアラスンハ各石炭ノ實價ヲ知ルニ由ナシト雖モ英吉利石炭ノ〇・九二噸ハ最良アマッス石炭〇・九四噸クルハルパルレー石炭一噸最良シンガレニー石炭殆ト一噸一二最良バルパクール石炭殆ト一噸一四ニ同シト測定スレハ大過ナキニ近カラン

印度ニ於ケル石炭ノ採收事業ハ英吉利ニ於ケル同事業ニ比シ頗ル其境遇ヲ異ニセリ從來印度炭坑ノ深サハ通常英吉利人ノ實驗シタル石炭坑ノ如ク深カラス且ツ假令其名ハ坑ト言フモ其實丘傍ヲ走レル隧道ニ過キサルモノ往々之アリ炭化水素其他天然ノ不幸ニ遭遇スルコトモ亦英吉利ニ比スレハ極テ少シトス既往二箇年ニ於テ重ナル炭坑ニ生シタル天災數ヲ採收セラレタル石炭ノ毎千噸ニ配當シタル一表ニ據レハ千八百九十二年間ニ人命ヲ害シタル天災ノ割合ハ採收セラレタル石炭ノ毎千噸ニ附キ〇・〇一乃至〇・一一ト爲リ又重天災ニ附キテ同上ノ割合ヲ求ムレハ千八百九十二年間ニ於ケル同天災ノ數ハ採收セラレタル石炭毎千噸ニ對シ〇・〇一乃至〇・四四ニシテ千八百九十三年間ノ同上數ハ〇・〇三乃至〇・三五ナリ

印度ノ採炭事業ニ關シテ生スル天災ノ甚タ僅少ナルハ前掲ノ統計ニ徴シテ已ニ明白ナルカ天災ノ割合ニ於テ其僅少ナルコト斯ノ如クナルハ啻ニ炭坑ノ管理上ニ大ナル利益アルノミナラス印度ノ採炭者ハ歐羅巴ノ同業者ヨリモ遙ニ安全ノ境遇ニ在リテ其業ニ從事スルコト亦明ナリ（本年九月英國商務院月報）

獨逸

○貨幣鑄造及流通高　獨逸造幣局ニ於テハ本年九月中ニ金貨千七百二十七万三千四百八十馬、銀貨百十一万千三百十馬、白銅貨九千馬、銅貨十万九百八十四馬三布ヲ鑄造シタレハ現今同國ニ於テ流通スル各貨幣ノ總額ハ金貨二十八億三千二百七十三万七千八百八十馬、銀貨四億七千四百二十三万六千四十五馬八十布、白銅貨五千二百二十二万六千百四十三馬五十布、銅貨千二百五十七万七千四二馬八十三布ト爲レリ（本年十月十一日獨逸アルゲマイネ、ツアイツング）

澳地利

○千八百九十五年度ノ歲計豫算案　本日十月十六日澳國衆議院ニ提出セラレタル千八百九十五年度ノ歲計豫算案ニ據レハ歲出總額六億三千六百五十二万七千八百七十銀一銀八歲入總額六億三千八百九十八万五千五百七十七銀ニシテ歲入ノ歲出ニ對スル超過額ハ二百四十五万七千七百七銀即チ前年度ヨリ增シタルコト十三万四千六百八十八銀ナリ（本年十月十六日獨逸官報）

白耳義

○世界博覽會出品人及褒賞受收者ノ數　本月十二日アンヴェール世界博覽會褒賞授與式ヲ執行セシカ其際白耳義農工務大臣ノ爲シタル演說ニ據レハ千八百八十五年同府ニ於テ開設シタル世界博覽會出品人ノ總數一万四千五百人ニシテ內褒賞ヲ受ケタル者八千六百人ナリシニ今回博覽會出品人ノ總數ハ一万二千人ニシテ內褒賞ヲ受ケタル者八千人以上ニ達シ又此內大褒證ヲ受ケタル者四百人、名譽褒證ヲ受ケタル者八百人、金牌ヲ受ケタル者千八百人ナリ即チ之ヲ國別スレハ左表ノ如シ本年十一月七日（本年十月十一日澳國商業博物館過報）日本欄內參看

出品人ノ數　褒賞受收者ノ數

	出品人ノ數	褒賞受收者ノ數
獨逸	七〇六	七〇六
英吉利	三三三	三三三
澳地利	二一四	一六八
和蘭	一六七	四八
匈牙利	四、一三四	二、四七〇
白耳義	二二六	二二二
北米合衆國		
佛蘭西	一五五	一七二
伊太利	三八六	三一七
和蘭	三七二	二三三
露西亞	一四	一二
瑞西		

○觀象

○各地ノ氣候　各測候所創立以來昨年マテノ觀測ニ係ル十二月中ノ氣候ハ左ノ如シ（內務省）

測候所	測候年數	平均氣壓 本所海面	平均氣壓 平均	最高氣壓 平均	最高氣壓 最高	最低氣壓 最低	最低氣壓 極	溫 平均	溫 最高	溫 最低	雨雪量 一箇月ノ總量	雨雪量 一日中最多量	風 最多方向	風 最強速度	風 最強ノ方向	快晴	曇	雨雪
那覇	四	七六二・九	七六二・三八	二〇・九	二六・四	二・七・八	五五・五	七・八	二四・五	一・四	七四・九	三四・〇	二・三・四	一・七	北、北東	一・三	一・四	一・四
鹿兒島	一一	七六五・七	七六六・〇	二〇・五	二六・五	二・三・七	五五・五	八・五	二四・五	一・四	八一・三	六五・三	二・一・四	八・九	北、北西	一・六	一・二	一・一
宮崎	一一	七六五・一	七六五・八	二〇・三	二六・〇	二・三・五	五五・〇	八・〇	二四・七	一・九	一〇・三	六三・一	一・四・〇	七・〇	西、北西	一・三	一・一	一・一
高知	一二	七六一・〇	七六四・九	二〇・八	二六・四	二・三・七	五四・〇	七・〇	二四・八	一・九	二二・五	七九・五	一二五・八	一二・七	南西、西	一・七	一・一	一・一
德島	一三	七六四・七	七六五・一	二〇・九	二六・五	二・三・五	五四・七	七・一	二四・九	一・五	一一・一	一一・一	二四・八	八・九	北西、北東	一・五	一・一	一・一
和歌山	一五	七六三・三	七六四・七	二〇・五	二六・五	二・三・五	五五・五	八・〇	二四・九	一・五	一二・九	一一・一	二四・九	一二・九	北西、北東	一・五	一・一	一・一
大分	七	七六三・〇	七六五・八	二〇・九	二六・四	二・三・四	五五・六	一一・四	二四・三	一・五	一〇・八	一一・一	二四・七	一〇・八	北、北東	一・一	一・一	一・一
山口	六	七六二・三	七六五・〇	二〇・五	二六・五	二・三・五	五五・六	一〇・八	二四・三	一・五	一一・一	一一・一	二四・七	一・七	北、北東	一・一	一・一	一・一
廣島	一一	七六二・四	七六五・四	二〇・五	二六・五	二・三・五	五四・〇	一一・一	二四・三	一・五	一一・一	一一・一	二四・四	一・七	北、北東	一・一	一・一	一・一
松山	一一	七六二・一	七六四・六	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	二・五	西、北西	一・一	一・一	一・一
多度津	二	七六二・四	七六四・六	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
岡山	三	七六二・三	七六五・三	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
大阪	二	七六四・三	七六四・八	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
京都	一三	七六四・三	七六四・九	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
熊本	四	七六四・八	七六六・四	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
佐賀	四	七六五・一	七六六・三	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
長崎	一六	七六一・三	七六六・五	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
福岡	四	七六五・五	七六六・二	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
嚴原	七	七六五・八	七六六・七	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
赤間關	七	七六五・九	七六六・七	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
授田	一一	七六四・〇	七六六・〇	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
境	一一	七六四・六	七六四・八	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・六	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
津	五	七六三・八	七六四・三	二〇・九	二六・四	二・三・九	五四・〇	一一・五	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
名古屋	四	七六一・九	七六三・三	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・七	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
岐阜	一一	七六二・七	七六四・〇	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
濱松	一一	七六二・〇	七六三・三	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
沼津	一一	七六〇・八	七六一・七	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
東京	一八	七六五・九	七六一・一八	二〇・九	二六・四	二・三・九	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
宇都宮	四	七四・九	七六一・五	二〇・五	二六・四	二・三・五	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
銚子	七	七六一・八	七六一・一	二〇・九	二六・四	二・三・九	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
金澤	二	七六一・三	七六二・三	二〇・九	二六・四	二・三・九	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
伏木	九	七六三・七	七六四・〇	二〇・九	二六・四	二・三・九	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
長野	二	七六二・五	七六四・一	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
新潟	三	七六〇・五	七六一・九	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
山形	五	七四九・三	七六一・二	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
秋田	一一	七六〇・九	七六一・一	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
福島	五	七五六・〇	七六一・〇	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
石卷	七	七五七・五	七六一・〇	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
宮古	一一	七五七・九	七六〇・五	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
青森	二	七六〇・三	七六〇・三	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
函館	二〇	七六〇・三	七六〇・五	二〇・八	二六・四	二・三・八	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
札幌	一〇	七五八・三	七五九・九	二〇・〇	二六・四	二・三・〇	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一
帧幌	一七	七五七・四	七五九・〇	二〇・〇	二六・四	二・三・〇	五四・〇	一一・〇	二四・一	一・七	一一・一	一一・一	二四・六	一・六	北、北西	一・一	一・一	一・一

特 3429 号 本文

區別	測候所	氣壓 時	氣壓 度	氣壓 分	氣溫 時	氣溫 度	氣溫 分	風 時	風 方	風 力	雪量 時	雪量 度	雪量 分	天氣 時	天氣
一	函館	前九時	七六	七八・八一	前九時	五〇	〇・〇	前九時	北西	二	前九時	一	〇・〇	前九時	雨
	宮城	午後六時	七五	七五・〇一	午後六時	一四	一・一一	午後六時	西	一	午後六時	一	一・九七	午後六時	雨
	秋田	前九時	七五	七五・六一	前九時	一六	一・〇一	前九時	北西	一	前九時	一	一・〇〇	前九時	雨
	山形	午後六時	七五	七五・八四	午後六時	一六	一・〇一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・〇〇	午後六時	雨
	福島	前九時	七五	七五・六六	前九時	一四	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	宮城	午後六時	七五	七五・八八	午後六時	一六	一・〇一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・〇〇	午後六時	雨
	長野	前九時	七五	七五・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	長野	午後六時	七五	七五・三五	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	新潟	前九時	七五	七五・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	新潟	午後六時	七五	七五・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	高田	前九時	七五	七五・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	高田	午後六時	七五	七五・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
二	松本	前九時	七五	七五・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	松本	午後六時	七五	七五・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	長野	前九時	七五	七五・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	長野	午後六時	七五	七五・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	高崎	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	高崎	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	前橋	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	前橋	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
三	宇都宮	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	宇都宮	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	水戸	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	水戸	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	佐倉	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	佐倉	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	銚子	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	銚子	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
四	甲府	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	甲府	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	岐阜	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	岐阜	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	名古屋	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	名古屋	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
五	長野	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	長野	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	金澤	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	金澤	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	富山	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	富山	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
六	福井	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	福井	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	大津	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	大津	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	京都	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	京都	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	大阪	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	大阪	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
七	神戸	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	神戸	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	岐阜	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	岐阜	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	名古屋	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	名古屋	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	長野	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	長野	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	彦根	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	彦根	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	堺	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	堺	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
八	和歌山	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	和歌山	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	大阪	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	大阪	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	奈良	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	奈良	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	山口	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	山口	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
九	福岡	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	福岡	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	佐賀	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	佐賀	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	長崎	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	長崎	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	佐世保	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	佐世保	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
十	鹿兒島	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	鹿兒島	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	宮崎	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	宮崎	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨
	鹿兒島	前九時	七六	七六・六六	前九時	一四	一・二一	前九時	北西	一	前九時	一	一・二一	前九時	雨
	鹿兒島	午後六時	七六	七六・八八	午後六時	一六	一・二一	午後六時	北西	一	午後六時	一	一・二一	午後六時	雨
	名瀬	前九時	七六	七六・三五	前九時	一〇	〇・九一	前九時	北西	一	前九時	一	〇・九七	前九時	雨
	名瀬	午後六時	七六	七六・七七	午後六時	一〇	〇・九一	午後六時	北西	一	午後六時	一	〇・九七	午後六時	雨

○全國氣象摘要　十一月二十九日午後十時　全國北乃至西ノ風吹キ過半蟲天且ツ寒冷ニシテ西部ハ雨天ナレトモ極北部ハ一部晴天ナリ○汐岬ハ溫度十七度上川ハ永點下一度ヲ示セリ◉十一月三十日午前六時　晴雨計ハ朝鮮ノ南部ニ最高度七百六十八粍東海岸ノ沖合ニ最低七百六十一粍ヲ示セリ○全國北ノ寒風吹キ過半雨勝ナレトモ極西部及極北部ハ一部晴天ナリ○溫度ハ南及ヒ南東海岸ノ諸所ニ十三度上川ニ永點下三度ナリ◉十一月三十日午後二時　全國北乃至西ノ風吹キ概ネ晴天ニシテ寒冷ナレトモ北西海岸ハ少雨降レリ○晴雨計ハ朝鮮ノ南部ニ於ケル七百七十粍ヲ北海道東部ノ沖合ニ於ケル七百六十粍ノ間ニアリテ溫度ハ汐岬ニ於ケル二十度ヲ上川ニ於ケル一度ニ及ヘリ　（中央氣象臺）

○全國天氣豫報　十二月一日分　自十一月三十日午後六時　至十二月一日午後六時

（一ヨリ四、六）北又ハ西ノ風晴レ寒クナル（五、七）北又ハ西ノ風概ネ晴レ但シ雨又ハ雪模樣ノ所アリ寒クナル

○東京地方天氣豫報　十二月一日分　自十一月三十日午後六時　至十二月一日午後六時

北ノ風晴レ寒クナル

○解警戒　十一月二十九日午後十一時三十分六、七區ノ沿海ノ警戒ヲ解ク

○地震報告　熊本ノ地震報告ハ左ノ如シ

熊本　十一月三十日　午前十一時五十一分零秒　微　（以上四件中央氣象臺）

○廣告

○檢定教科用圖書

高等小學校歷史科生徒用　全二冊

小學校用　新日本小史

明治二十七年十一月五日訂正再版發行　定價金二十七錢

編著者　東京府士族　島山　讓　發行者　東京市日本橋區馬喰町三町目四番地山内藤恒右衛門

小學信濃歷史談

明治二十七年十月二十五日訂正再版發行　全一冊　定價金十錢

著作者　長野縣士族　太田　鶴雄　發行者　長野縣東筑摩郡松本町百九十七番地長野縣平民　小松　鶯吉

帝國小史　第三學年用

明治二十七年十一月十二日訂正再版發行　全一冊　定價金十七錢

著作者　東京府士族　山縣　悌三郎

發行者　東京府東京市日本橋區本町四町目十六番地東京府士族　小林　義則

高知縣史談

明治二十七年十月十五日訂正再版發行　全一冊

著述兼發行者　高知縣士族佐那江ノ口村大川筋十八番邸高知縣　青木　義正

尋常高等小學校歷史科生徒用

小學校生徒用

明治二十七年十一月五日訂正再版發行　全一冊

著者　群馬縣平民　堤　辰二　發行者　群馬縣西群馬郡高崎町大字田町四十九番地群馬縣平民　吉田　鐵三郎　定價金六十八錢

高等小學校習字科生徒用

改、高等小學習字手本

正

明治二十七年十一月十五日訂正再版發行　共十六冊

編纂者　京都府京都市上京區東洞院三條上ル壘華院前ノ町十番戸京都府平民　中村　鼎五　發行者　滋賀縣士族　村上　勘兵衛

書者　京都府京都市下京區寺町四條上ル大文字町十八番戸京都府平民　田中　治兵衛　發行者　大阪府平民　名和　喜七　定價金十二錢

尋常中學校國語科

新假字づかひ教科書

明治二十七年二月二十四日發行　全一冊　定價金十五錢

著者　山梨縣士族　鈴木　弘蕃　發行者　東京府東京市京橋區築地二町目二十二番地愛知縣平民　栗本　長賀

右明治二十七年十一月二十六日檢定

明治二十七年十一月

文部省

○圖書發刊

東京學士會院雜誌第十六編ノ十　定價七錢郵稅五厘

社會ノ病弊妨害經（杉亨二）　近今開化ノ四大要素（文學博士加藤弘之）　百濟所獻千文考殿論ニ附キ（文學博士島田重禮）　彙報廣告等數件

發賣ハ京橋區銀座一町目二十三番地大日本圖書株式會社ニ命ス

明治二十七年十一月　東京學士會院

○船免狀流失

一汽船苫前丸登簿船免狀第一三四三號　明治二十六年七月十九日下付　船主　麻里　英三

右流失ノ旨屆出シニ附キ所在見聞ノ者ハ管轄廳ヘ申出ツヘシ

明治二十七年十一月二十九日　遞信省

○倉庫貸下

東京米廩構內

一第一區倉庫三棟　此建坪六百五坪

一第一區倉庫七棟　此建坪九百六十五坪

一第二區倉庫五棟　此建坪九百十五坪

一此貸下期限第一區ハ貸下契約締結ノ翌日ヨリ、第二區、第三區ハ來ル二十八年一月二十九日ヨリ孰モ一箇年以上三箇年以內

一此入札保證金第一區ハ金十圓、第二區ハ金十五圓、第三區ハ金十二圓

右借受望ノ者ハ入札規則契約書案（當課廳ニ米廩ニアリ）及現場トモ熟覽ノ上本月十八日午前十時マテニ當課用度掛ヘ入札書差出スヘシ但シ同日開札ス

此契約ハ大藏大臣官房第四課長山本豐躬擔任ス

明治二十七年十二月一日　大藏大臣官房第四課

○工事請負入札

一小石川郵便支局舍新營　此入札保證金百二十圓

但シ契約保證金ハ落札代價百分ノ十一トス入札者ハ二年以來該營繕ニ從事シ其證明アル者ニ限ル

右競爭ニ附ス工事請負望ノ者ハ現場ヲ一覽シ當局會計課ニ就キテ圖面仕樣書及入札心得契約書案等熟覽ノ上來ル十二月十五日午前十一時三十分限營業證明書入札保證金ヲ添ヘ入札書差出スヘシ開札ハ即時同課ニ於テ執行ス

此契約ハ東京郵便電信局長因藤成光締結ス

明治二十七年十一月三十日　東京郵便電信局

○入札拂下

大田原小林區署管下

第一號下野國那須郡東那須野村大字滔野田和字滔端官林內

一樺外三種生立木七百九本　此材積千百八十尺〆餘

一雜生立木二十七本　同　零棚六分十六尺〆餘　此入札保證金七十圓

第二號同官林內

一樺外二種損木二十七本

一樺外三種生立木三百二十六本

一雜生立木十八本

第三號同國同郡同村大字三本水字八丁久保官林內

一松外三種生立木五百三十七本　此材積千四百九十七尺〆餘

一雜生立木七百五十本　同　四十八棚餘

一松外二種損木百七本　同　百七十六尺〆餘　此入札保證金四十圓

第四號同官林內

一松外三種生立木四百四十九本　此材積千四百八十四尺〆餘

一雜生立木百五十本　同　二十四棚

一松外二種損木六十一本　同　九十八尺〆餘　此入札保證金四十圓

第五號同國同郡七谷村大字大楠字ネコヤ官林內

一杉生立木百二本　此材積百八十二尺〆餘　此入札保證金十圓

第六號同國同郡伊王野村大字伊王野字米澤官林內

一松樅生立木九十五本　此材積千七十九尺〆餘　此入札保證金七十圓

一雜生立木九千七十一本　同　千五十二棚餘

右來ル十二月十五日下野國那須郡大田原町大田原小林區署ニ於テ公賣ス望ノ者ハ當署又ハ該小林區署ニ就キ諸事承合尙ホ現場熟覽ノ上其當日午前十時限入札スヘシ但シ即日開札ス

此契約ハ營林主事刈屋爲太郎擔當ス

明治二十七年十一月三十日　東京大林區署

第一號

一篠硝子板　五百五十枚　此入札保證金三十圓

第二號

一澤田石　五百六十四箇　此入札保證金十圓

官報 34229 本文

第三號
一積込煖爐用釜前飾及附屬品トモ　六十六箇所分　此入札保證金三十圓
第四號
一笘　五百五十枚　此入札保證金五圓
第五號
一杉丸太　二百本　此入札保證金五圓
右賣却ス望ミノ者ハ當課ニ就キ入札人心得書及契約案現品等熟覽ノ上來ル十二月十四日午前九時ヨリ十一時マテニ當課ニ於テ入札スヘシ但シ即時開札ノ事
契約主貴族院書記官長中根重一

明治二十七年十一月三十日　貴族院事務局
會計課

一人造ホルトランドセメント購買
但シ本月十七日午前十時入札同三十分開札ス
一檜挽立材購買
但シ本月十七日午後一時入札同三十分開札ス
一塗下天井工事
但シ本月十七日午後三時入札同三十分開札ス
此入札保證金ハ每條各自見積高二十分ノ一以上(圓未端切上ケ)
右請負望ノ者ハ麹町區日比谷練兵場西方內務省土木局裁判所建築工場ニ就キ注文書契約書案及定則現場トモ熟覽ノ上入札スヘシ
此契約ハ土木局長都筑馨六擔任ス

明治二十七年十二月一日　內務省土木局

一西洋形風帆船　一艘
長サ甲板上ニ於テ七十尺乃至九十尺、最大幅十六尺乃至二十一尺、深サ船底內板ヨリ甲板下面マテ七尺乃至十尺、キールし幅八寸厚サ九寸以上、外板厚サ二寸以上、肋材三寸以上二枚合セニシテ中心ノ距離二尺以下、船體ハ製造後十二箇年ヲ經過セサルモノニシテ朽腐損傷等ナキモノ、錨卷揚器ハ千五百斤以上ノ錨ヲ卷キ揚ケ得ルモノ
此入札保證金各自見積代價ノ百分ノ七以上
右入札ニ附シ購入ス供給望ノ者ハ當局ニ就キ入札心得書契約書案、甲板部改造仕樣書等熟覽ノ上來ル十二月十五日午前十時マテニ入札書差出スヘシ同日午前十時二十分當局ニ於テ開札ス
此契約ハ臨時橫濱築港局長中野健明之ヲ締結ス

明治二十七年十一月三十日　臨時橫濱築港局

需主第四九號
一新松　十万本
需船第四七號
一護謨蛇管　百八十米突
需機第七二號
一保罐用亞鉛板　百箇
各入札保證金ハ各自見積代價ノ百分ノ五以上、契約保證金ハ請負代價ノ百分ノ十(錢以下切上ケ圓止トス)入札者ハ二年以來其營業ニ從事スル者ニ限ル

右購買ス望ノ者ハ橫須賀艦營需品庫ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上本月十八日營業證明書及入札保證金相添ヘ同庫ニ入札書差出スヘシ但シ同日午前十時三十分同庫ニ於テ開札ノ事
此契約ハ橫須賀鎭守府監督部長岩村兼善擔任ス

明治二十七年十二月一日　橫須賀鎭守府監督部

一木炭　三万貫目
入札保證金ハ各自見積高ノ百分ノ五以上トス、契約保證金ハ請負代金ノ百分ノ十一、入札者ハ二箇年以來其營業ニ從事スル者ニ限ル
右競爭ニ附シ購買ス供給望ノ者ハ來ル十二月十三日マテニ當局會計課ニ就キ見本竝ニ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上同十四日午前十一時マテニ營業證明書及入札保證金添ヘ入札スヘシ但シ開札ハ當日午前十一時三十分當局ニ於テ執行ス
此契約ハ東京郵便電信局長因藤成光締結ス

明治二十七年十一月二十八日　東京郵便電信局

淀橋淨水工場濾池引出口用アングル鐵外一種購買　此入札保證金二十圓
右請負望ノ者ハ東京府廳內水道改良事務所ヘ申出テ入札請負規則同心得仕樣書熟覽ノ上本月六日午前十時マテニ入札スヘシ但シ即日開札ス

明治二十七年十二月一日　東京市參事會

○支金庫移轉
札幌本金庫所屬室蘭支金庫ノ儀本月十日ヨリ室蘭郡札幌通番外地ヘ移轉ス

明治二十七年十二月一日　中央金庫

愛媛縣伊豫國寄多郡新谷村大字新谷村ノ內
一田合段別八段貳拾六歩
右華族正四位子爵加藤泰令所有ノ分今般世襲財產ト爲シ度旨同人ヨリ願出テタル趣宮內大臣ヨリ達セラレタリ依テ該財產ニ關シ故障アル者ハ明治二十八年一月四日マテニ當廳ヘ申出ツヘシ
但シ地所番號字等承知セントスル者ハ當廳內務部第一課ヘ申出ツヘシ

明治二十七年十一月二十八日　愛媛縣

當會社新株淺井キン氏記名乙(自第二一四七五號至第二一四七九號)五株紛失ニ附キ爾今無效ノ事

明治二十七年十一月二十六日　關西鐵道株式會社

○日本郵船會社汽船橫濱出發表

本月五日　午後四時　東海丸　三宅島八丈島小笠原父島母島行

○本月五日午後零時三十八分本局締切積込汽車送同地ニ於テ東海丸ニ積込ミ三宅島八丈島ヲ經テ小笠原父島母島ヘ向ケ郵便物差立

明治二十七年十二月一日　東京郵便電信局

○附錄　十一月分官報目錄七頁及廣告八頁

第 3429 号

官報第三千四百二十九號附錄

明治二十七年十二月一日

○廣告

○獻納金

陸軍省告示第八號ニ依リ去月三十日ノ官報ニ登載セシ分ニ引續キ納付ノ手續ヲ了シタル金員及獻金者氏名左ノ如シ但シ順序ハ申出ノ遲速ニ拘ラス手續ヲ了シタル順序トス

明治二十七年十二月一日

申出月日	金員	府縣族籍爵位氏名
八九一〇	一	福井縣平民　大久保三助
八九一〇	一	同　吉田左近
八九一〇	二	同　上田甚五郎
八九一〇	一	同　山本三郎右衛門
八九一〇	一	同　齋藤左近伊右衛門
八九一〇	一	同　田邊津太郎
八九一〇	二	福井縣平民　山田勘兵衛
八九一〇	一	京都府平民　赤荻七郎
八九一〇	一	同　近江屋七兵衛
八九一〇	一	同　山田元次郎
八九一〇	一	同　蘆田キヨ
八九一〇	一	同　笠島クノ
八九一〇	一	同　沖波タエ
八九一〇	一	同　三上シヨウ
八一〇〇	一	同　佐々木フサ
八一〇〇	一	同　末廣ツネ
八一〇〇	二	同　竹田ヤエ
八九一〇	一	石川縣平民　西村チヨ
八九一〇	一	福井縣平民　牧野太郎
八八一〇	一	同　牧野伊兵衛
八八一〇	一	同　牧野淺右衛門
八八一〇	一	同　山口長左衛門
八八一〇	一	同　山口重右衛門
八八一〇	一	同　山口庄左衛門
八七一〇	一	福井縣丹生郡織田村大字織田有志者總代
八七一〇	二	福井縣平民　水島惣左衛門
八八一〇	一	同　林武右衛門
八八一〇	一	同　上坂清右衛門
八八一〇	一	同　島田七郎兵衛
八八一〇	一	同　水島六兵衛
八七一〇	一	福井縣丹生郡織田村大字織田有志者總代
八七一〇	一	平民　北野松之助
八七一〇	一	福井縣平民　森崎仙次郎
八七一〇	三・六〇	同　池上市郎右衛門
八八一〇	一	福井縣　吉田長兵衛

陸軍省恤兵部

申出月日	金員	府縣族籍爵位氏名
八八一〇	一	福井縣平民　山本三助
八八一〇	一	同　左近甚五郎
八八一〇	一	同　山本三郎右衛門
八八一〇	一	福井縣　上田伊右衛門
八八一〇	一	同　左近津太郎
八七一〇	二	福井縣丹生郡織田村大字織田有志者總代
八七一〇	一	平民　泉勘兵衛
八七一〇	一	福井縣平民　北野七左衛門
八七一〇	一	同　水谷市郎右衛門
八七一〇	一	同　早川元次郎
八七一〇	一	同　谷口與左衛門
八七一〇	一	同　小辻五兵衛
八七一〇	一	同　武田秀逸
八七一〇	一	同　大野屋駒治郎
八七一〇	一	同　水島仁兵衛
八七一〇	一	同　杉本敷間
八七一〇	一	同　神足孝男
八七一〇	一	同　古川ナカ
八七一〇	一	同　駒野傳兵衛
八七一〇	一	同　北野七郎左衛門
八七一〇	一	同　北島與吉
八七一〇	一	同　駒野與三左衛門
八七一〇	一	同　北野榮吉
八七一〇	一	同　小辻武夫
八七一〇	一	同　水田彌次郎
八七一〇	一	同　島田彌左衛門
八七一〇	一	同　駒野多郎左衛門
八七一〇	一	同　河上市之丞
八七一〇	一	同　河上四良吉
八七一〇	一	同　河上小左衛門
八七一〇	一	同　河上重右衛門
八七一〇	一	同　河上平左衛門
八七一〇	一	同　關新兵衛
八七一〇	一	福井縣　字野新左衛門
八七一〇	一	福井縣平民　字野椛右衛門
八七一〇	一	同　字野織田新兵衛
八七一〇	一	同　字野織田觀識
八七一〇	未詳	福井縣平民　毛利安右衛門
八七一〇	一	同　小柳仲右衛門
八七一〇	一	同　上坂仲右衛門
八七一〇	一	同　宇野與右衛門
八七一〇	一	同　友廣治郎
八七一〇	一	同　友廣與重郎
八七一〇	一	福井縣　奥田喜左衛門
八七一〇	一	同　友廣與三郎
八七一〇	一	福井縣平民　渡邊十右衛門
八七一〇	一	同　伊部圧太郎
八七一〇	一	同　伊部杢右衛門
八七一〇	一	同　伊部仁左衛門
八七一〇	一	同　伊部與三五郎
八七一〇	一	同　伊部平藏
八七一〇	一	同　海邊十治郎
八七一〇	一	同　伊部玉五郎
八七一〇	一	同　佐々木藤右衛門
八七一〇	一	同　佐々木藤左衛門
八七一〇	一	同　山岸與太郎
八七一〇	一	同　伊部庄兵衛
八七一〇	一	同　渡邊仁平
八七一〇	一	同　久守孫右衛門
八七一〇	一	同　小形日鍼
八九一〇	一	福井縣　國兼長右衛門
八九一〇	一	同　國兼重右衛門
八九一〇	一	同　國兼茂右衛門
八九一〇	一	福井縣平民　荒木左衛門
八八一〇	一	同　水野三右衛門
八八一〇	一	同　伊內左衛門
八八一〇	一	同　來馬小左衛門
八八一〇	一	同　吉田善右衛門
八九一〇	一	同　竹內作左衛門
八九一〇	一	同　島崎作左衛門
八九一〇	一	同　鈴木長右衛門
八九一〇	一	同　藤澤安右衛門
八九一〇	一	同　加川捌兵衛
八九一〇	一	同　加川悅右衛門
八九一〇	一	同　加崎治右衛門
八九一〇	一	同　川崎助右衛門
八九一〇	一	同　加藤愛之助
八九一〇	一	同　若島儀兵衛
八九一〇	一	同　山下名平
八九一〇	一	同　加藤吉右衛門
八九一〇	一	同　白崎右衛門
八九一〇	一	同　川本權助
八九一〇	一	同　石田與作
八九一〇	一	同　中村右衛門
八九一〇	一	同　今藤與藏
八九一〇	一	同　山崎才右衛門
八九一〇	一	同　白崎次左衛門
八九一〇	一	同　藤田九郎
八九一〇	一	同　左藤三郎
八九一〇	一	同　中村市左衛門
八九一〇	一	同　江川名小三郎
八九一〇	一	同　波多野紋次郎
八九一〇	一	同　中島榮吉
八九一〇	一	同　白屋キリ
八九一〇	一	同　市原三次郎
八九一〇	一	福井縣平民　岡田六三郎
八九一〇	一	同　高村興作
八九一〇	一	同　大鹽十次
八九一〇	一	同　小西ヒヤヤ
八九一〇	一	同　岸本イトデ
八九一〇	一	同　山本ワメ
八九一〇	一	同　森本トメ
八九一〇	一	同　上林カツ
八九一〇	一	同　辻ユキ
八九一〇	一	同　堀ハル
八九一〇	一・五〇	同　山內三郎
八九一〇	一	同　三村古
八九一〇	一	同　澤平
八九一〇	二	福井縣士族　左衛門外吉
八九一〇	五	同　日下卯右衛門
八九一〇	一	同　白崎圧左衛門
八九一〇	一	同　加藤七郎兵衛
八九一〇	一	同　村田西左衛門
八九一〇	一	同　宮下六右衛門
八九一〇	一	同　今藤半右衛門
八九一〇	一	同　日下山兵衛
八九一〇	一	同　日下ベン
八九一〇	一	福井縣士族　西村彌助
八九一〇	一	福井縣平民　松島信藏
八九一〇	一	同　田島五三郎
八九一〇	一	同　飛田茂右衛門
八九一〇	一	福島　佐野右衛門
八九一〇	一	同　孝久春吉
八九一〇	一	同　飛田茂左衛門
八九一〇	三	同　佐野茂七
八九一〇	三	同　辻甚左衛門
八九一〇	五	同　打濱嘉左衛門
八九一〇	七・五〇	同　佐野六兵衛
八九一〇	一	同　岡山虎次郎
八九一〇	四	同　岡田兒玉與次兵衛
八九一〇	一	同　橋谷已之助
八九一〇	一	同　岡山藤平作
八九一〇	一	同　辻山藤右衛門
八九一〇	一	同　木津清右衛門
八九一〇	一	同　橋谷彌部文策
八九一〇	三	同　背柳左衛門
八九一〇	一	同　槇本敬次郎
八九一〇	一	同　田島清左衛門
八九一〇	五	福井縣丹生郡朝日村大字西
八九一〇	一	同　田中有志者總代
八九一〇	八・七二	平民　十二名四十
八九一〇	一	福井縣平民　古澤總代
八九一〇	一	同　左衛門
八九一〇	一	同　山內
八九一〇	一	同　三村
八九一〇	二	同　澤
八九一〇	二	同　平
八九一〇	五	福井縣士族　外吉
八九一〇	一	同　日下卯右衛門
八九一〇	一	同　白崎圧左衛門
八九一〇	一	同　加藤七郎兵衛
八九一〇	一	同　村田西左衛門
八九一〇	一	同　宮下六右衛門
八九一〇	一	同　今藤半右衛門
八九一〇	一	同　日下山兵衛
八九一〇	一	同　日下ベン
八九一〇	一	福井縣士族　西村彌助
八九一〇	一	福井縣平民　松島信藏
八九一〇	一	同　田島五三郎
八九一〇	一	同　飛田茂右衛門
八九一〇	一	福島　佐野右衛門
八九一〇	一	同　孝久春吉
八九一〇	一	同　飛田茂左衛門
八九一〇	三	同　佐野茂七
八九一〇	三	同　辻甚左衛門
八九一〇	五	同　打濱嘉左衛門
八九一〇	七・五〇	同　佐野六兵衛
八九一〇	一	同　岡山虎次郎
八九一〇	四	同　岡田兒玉與次兵衛
八九一〇	一	同　橋谷已之助
八九一〇	一	同　岡山藤平作
八九一〇	一	同　辻山藤右衛門
八九一〇	一	同　木津清右衛門
八九一〇	一	同　橋谷彌部文策
八九一〇	三	同　背柳左衛門
八九一〇	一	同　槇本敬次郎
八九一〇	一	同　田島清左衛門
八九一〇	五	福井縣丹生郡朝日村大字西
八九一〇	一	同　田中有志者總代
八九一〇	八・七二	平民　十二名四十
八九一〇	一	福井縣平民　古澤總代
八九一〇	一	同　左衛門
八九一〇	一	同　山內
八九一〇	一	同　三村
八九一〇	二	同　澤
八九一〇	二	同　平
八九一〇	五	福井縣士族　外吉

付錄

第 3429 号 付錄

| | | |

| | | |

○獻納金

海軍省告示第八號ニ依リ去月三十日ノ官報ニ登載セシ分ニ引續キ當局ニ於テ納付ノ手續ヲ了シタル金員及獻金者ノ氏名左ノ如シ但シ孰モ申出ノ遲速ニ拘ラス手續ヲ了シタル順序ニ依ル

明治二十七年十二月一日

海軍省經理局

申出月日	金員	府縣族籍爵位氏名
九一五	一・五〇	同　同　同

九一一	一六	新潟縣平民	川崎治作	九一六	栃木縣那須郡上江川村大字德積五味沼春吉外二十一名代表者
九一四	一〇	秋田縣平民	壓尾重藏	九一六	二八五
九一七	一〇	秋田縣平民	壓尾良助	九一六	一
八一〇	一〇	同	大西六右衛門	九一七	三重縣鈴鹿郡町村立高等小學校第一分教場有志生徒九十三名總代
九一三	一	同	謙尾謙吉	九一七	二三五
九一七	一	秋田縣士族	佐藤佐助	九一七	埼玉縣平民
九一七	一	同	後藤友之助	九一七	長野縣平民
九一七	一	秋田縣平民	三浦周吉	九一七	愛知縣平民
九一七	二	同	藤井謙吉	九一七	橋本清次郎
九一七	二	同	後藤佐助	九一七	佐々木義一
九一七	二	同	壓尾謙吉	九一七	佐々木義賢
九一七	二	同	佐々木長右衛門	九一七	橋本倉三郎
九一七	二	同	飯木與右衛門	九一七	黃瀨公成
九一七	二	同	佐々木五郎	九一七	石川縣平民
九一七	二	同	壓尾右衛門	九一七	若林清原
九一七	二	同	須田儀三郎	九一七	三輪谷現蹠蒙
九一七	二	山田仁右衛門	後藤光鄭	九一七	北力敷
九一七	二	佐々木與右衛門	小井土岩藏	九一七	井上橋
九一七	二	壓尾右衛門	西多五兵衛	九一七	島村祐信
九一七	二	新潟縣平民	金子金松	九一七	浦勘三郎
九一七	二	同	佐竹チヨ	九一七	柳澤賢司
九一七	二	岐阜縣平民	和田直吉	九一七	愛知縣平民
九一七	二	同	羽根由之助	九一七	佐々木義一
九一七	二	同	森安太郎	九一七	清水助
九一七	二	同	島宗吉	九一七	黃瀨十郎
九一七	二	青森縣士族	川上櫛右衛門	九一七	橋本清次郎
九一七	二	同	佐藤龜世	九一七	佐々木義一
九一七	二	新潟縣平民	朝要清七	九一七	清水助
九一七	二	福井縣平民	長津又六	九一七	黃瀨十郎
九一七	二	同	田市松	九一七	橋本清次郎
九一七	二	大阪府平民	京都府與謝郡石川村人民總代金谷太兵衛	九一七	佐々木義一
九一七	二	愛知縣平民	大岩與作	九一七	清水助
九一七	三	兵庫縣平民	大森惠藏	九一七	黃瀨十郎
九一八	二八〇	同	池田彌五郎	九一七	橋本清次郎
九一八	一	同	川田孫平	九一七	佐々木義一
九一八	一	同	竹市產	九一七	清水助
九一八	二九八五	愛知縣士族	筒井日完外二百二名	九一七	黃瀨十郎
九一九	一	同	新家彌一郎	九一七	橋本清次郎
九一九	一	愛知縣平民	政治郎	九一七	佐々木義一
九一九	一	同	中根太郎外六十名	九一七	清水助
九一九	七〇七	同	新田太郎八郎外四名	九一七	黃瀨十郎
九一五	二一三	三重縣士族	關本慎三	九一七	橋本清次郎
九一五	一	茨城縣平民	鑑原太郎	九一七	佐々木義一
九一八	一五〇	同	齋藤吉助	九一七	清水助
九一八	一	新潟縣平民	齋藤松三郎	九一七	黃瀨十郎
九一八	一	同	北野孝治	九一七	橋本清次郎
九一五	三三五〇	長野縣士族	菊松	九一七	佐々木義一
九一八	一〇	同市會代表者	和田喜代松	九一七	清水助
九一八	一	北海道廳平民	戶村喜代松	九一七	黃瀨十郎
九一八	二〇七	栃木縣那須郡上江川村大字下河內十二名代表者	戶村岩吉	九一七	橋本清次郎
九一八	一九〇	同	齋藤定吉	九一七	佐々木義一
九一八	一五〇	同村大字鹿子畑代表者	黑尾森三郎	九一七	清水助
九一八	一五〇	同村代表者	藤四郎	九一七	黃瀨十郎
九一八	一五〇	同	綱	九一七	橋本清次郎
九一八	一五〇	同	內譯	九一七	佐々木義一
九一九	二八五	栃木縣那須郡上江川村大字德積五味沼春吉外二十一名代表者	津浦勘三郎	九一七	清水助
九一九	一	新潟縣平民	島村祐信	九一七	黃瀨十郎
九一九	二	三重縣鈴鹿郡町村立高等小學校第一分教場有志生徒九十三名總代	柳澤賢司	九一七	橋本清次郎
九一九	二五	埼玉縣平民	愛知縣平民	九一七	佐々木義一
九一九	二	長野縣平民	橋本清次郎	九一七	清水助
九一九	二	愛知縣平民	佐々木義一	九一七	黃瀨十郎
九一九	二	同	清水助	九一七	橋本清次郎
九一九	二	同	黃瀨十郎	九一七	佐々木義一
九一九	二	同	橋本清次郎	九一七	清水助
九一九	二	同